



決め手は、青森県産。

りんご生産情報第14号（最終）



令和3年11月5日発表

青森県「攻めの農林水産業」推進本部

糖度高く無袋ふじの仕上がり良好、収穫は遅れずに！
シンクイムシ類の被害果は混入しないように！！
野ネズミ対策、雪害防止対策は万全に!!!

I 概要

無袋ふじは糖度が高く、仕上がり良好である。

収穫が遅れるほどつる割れの発生量が増加し、裂開の程度が大きくなるので、遅くとも11月15日頃までに終える。

果実疫病の感染を防ぐため、果実に泥が付着しないように注意する。収穫した果実は長く野積みをしない。

シンクイムシ類の被害果は健全果に混入しないよう徹底して選別する。

野ネズミ対策、雪害防止対策をしっかりと行う。

マメコバチの増殖を因るため、巣筒の更新や繭の洗浄などの管理や準備を適切に行う。

報道機関用提供資料	
担当課	農林水産部りんご果樹課
担当者	生産振興グループ GM 磯辺 慶
電話番号	直通 017-734-9492 内線 5092
報道監	農林水産部 次長（農商工連携推進監）近藤 幹三 内線 4967

県民の皆さまへのお願い
新型コロナ感染拡大防止



<https://www.pref.aomori.lg.jp/koho/covid19kakudaiboushi.html>

II りんご生産情報

1 果実肥大、果実熟度、作業の進み

(1) 果実肥大

11月1日現在、ふじの果実肥大は、概ね平年並から平年をやや下回っている。

○果実肥大（11月1日現在、横径cm、平年比%）

地 域	年	ふ じ
黒 石 (りんご研究所)	本 年	9.0
	平 年	8.9
	前 年	9.0
	平年比	101
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本 年	8.6
	平 年	8.9
	前 年	9.0
	平年比	97
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本 年	8.9
	平 年	8.9
	前 年	9.0
	平年比	100
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本 年	8.7
	平 年	8.7
	前 年	8.6
	平年比	100

注1 各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

2 青森市浪岡は収穫済

(2) 果実熟度

10月31日現在、無袋ふじは平年値と比較して、糖度は高く、ヨード反応はやや高く、着色指数はやや低く、硬度及び酸度は低い。総合的に見て、熟度はやや進んでいると見込まれる。

○ふじ（無袋）の熟度の進み

（調査月日：10月31日）

地 域	年	果重 (g)	着色 指数	硬度 (lbs)	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)	ヨード 反応	蜜果率 (%)	蜜入り 程度
黒 石 (りんご 研究所)	本年	352	3.3	13.8	14.8	0.329	2.5	100	1.9
	平年	349	3.5	14.8	14.2	0.384	2.2	94	1.7
	前年	389	3.0	14.5	13.5	0.319	1.9	92	1.0

注1 平年：2001年～2020年までの20か年平均。

2 着色指数：0～5（大きい数値ほど着色良好）

3 ヨード反応：ヨードでんぷん反応指数0～5
（小さい数値ほどでんぷんが少ない）

4 蜜入り程度：0～4（大きい数値ほど蜜入りが多い）

(3) ふじの果実形質調査結果

10月18日、19日に実施したふじの果実形質調査の結果では、最大横径から換算した玉別分布割合は、40玉相当の87～82mmが43.0%で最も多く、次いで36玉相当の91～88mmが21.3%であった。前年値と比較して、割合は、40玉相当が多く、36玉相当が少ない。

○ふじの玉別分布割合、平均横径、着果率（全県）

（調査月日：10月18日、19日）

区分	玉別分布割合（％）					平均横径 (mm)	着果率 (%)
	32玉 以上	36玉	40玉	46玉	50玉 以下		
本年	14.8	21.3	43.0	13.6	7.3	85.9	30.9
前年	22.2	23.7	36.4	11.5	6.1	87.1	31.3

注1 調査地点：30地点（津軽26地点、県南4地点）

2 玉別横径：32玉以上（92mm以上）、36玉（91～88mm）、40玉（87～82mm）、46玉（81～79mm）、50玉以下（78mm以下）

(4) 作業の進み（11月2日現在）

ふじの有袋果の収穫は終了、無袋果の収穫が始まっている。王林の収穫は終盤を迎えている。

2 作業の重点

(1) ふじ（無袋）の収穫

収穫が遅れるほどつる割れの発生量が増加し、裂開の程度が大きくなるので、遅くとも11月15日頃までに終える。

ふじ（無袋）の収穫時の標準指標

硬度 (lbs)	糖度	ヨード反応	蜜入り程度	食味
13～16	13.5%以上	2以下	2以上	4以上

注 食味：指数1（未熟）～5（非常に良好）

(2) 果実の樹上凍結対策

気温がマイナス3℃を下回ると果心部まで凍結する可能性が高い。

樹上凍結した果実は、樹上で自然解凍した後に速やかに収穫し、凍結していない果実と区別して流通させる。

(3) 山選果の徹底

シンクイムシ類による被害果を流通させないために、収穫した果実は、選果時に徹底して選別する。

ビターピットや日焼け果、陽向面やけの発生が見られるので、出荷先の選果基準に基づき、きちんと分別して出荷する。

(4) 病虫害対策

ア 果実疫病（おそ疫病）

降雨時の収穫は行わない。やむを得ず収穫する場合は、果実に泥が付着しないように注意する。地面に落ちた果実は収穫した果実に混入させない。収穫した果実は長く野積みをしていない。

イ 腐らん病

収穫時につる折れ、つる抜けとして残ったつるから病原菌が侵入し、来年以降の発生につながるため、つるが果台に残らないように丁寧に収穫する。つるが残った場合は必ず果台から取り除く。

発生が多い園地では、ふじの収穫後のできるだけ早い時期にベフラン液剤25の1,000倍、トップジンM水和剤1,000倍、ベンレート水和剤2,000倍のいずれかを必ず散布する。

ウ 黒星病

被害落葉は翌年の伝染源となるので、積雪前又は消雪後にかき集めて、適切に処分する。

エ シンクイムシ類

被害果は見つけ次第、適切に処分する。

(5) 風害防止対策

強風に備え、防風網やわい性台樹の結束状況などを再度点検し、補強や取り替えを行う。

幹や主枝などに空洞が生じている樹や腐らん病の被害を受けた枝や樹は、支柱で支え、ひもなどで補強する。幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

(6) 野ネズミ対策

苗木や若木、わい性台樹は、野ネズミの被害を特に受けやすいので、食害防止対策を徹底する。防止効果の高い時期は積雪前と融雪後である。

ア 被害の回避

(ア) 園地を清掃し、果実など餌となるものを排除する。

(イ) 幹の周囲を耕起し、野ネズミの巣を壊す又は巣作りを防ぐ。

(ウ) 幹に地上1 mくらいの高さまで金網や合成樹脂のプロテクター、肥料等の空袋など防護用の被覆資材を巻く。

(エ) 忌避剤による防止

① 樹幹への処理（アンレス、キヒゲン）

② 樹冠下への処理（フジワン粒剤）

(オ) 雪の踏み固め及び枝の掘上げ

2月以降、数回幹の周りの雪を踏み固める。雪中に埋まった枝は掘上げておく。

イ 駆除

(ア) ワナなどの利用

金網製の生け捕りワナ、バネの力で捕らえる弾きワナ、粘着シートなどを利用する。

(イ) 殺そ剤の利用

園地の隣接する農家同士が共同で広範囲に渡って実施すると効果は高まる。

(7) 雪害防止対策

仙台管区气象台発表の寒候期予報によると、冬の降雪量は、東北日本海側ではほぼ平年並と見込まれているので、園地の積雪量に応じて対策を行う。

ア 根雪前の対策

【苗木・幼木】

- ・主幹や枝をひもなどで結束、特に主幹延長上の新梢も支柱に結束する。なお、雪の沈降力でひもがずれて落ちないように、きつく結束する。

【わい性台樹】

- ・枝の中央部からやや先を枝先が上向きになる程度まで吊り上げる。
- ・不要な下枝などは剪去する。

【普通台樹】

- ・雪害を受けそうな枝に支柱を入れるとともに、不要な枝を大枝単位に剪去する。
- ・樹上に雪が積もりにくくなるように、徒長枝は剪去し、切り口に塗布剤を塗る。
- ・裂開の生じている樹は、カスガイやボルトで補強する。

イ 積雪期間中の対策

【普通台樹】

- ・冠雪による被害防止のため、雪を降ろす。
- ・雪中の枝先は、雪が新しいうちに抜き上げる。
- ・融雪期に入ったら随時見回り、枝を引き上げる。
- ・雪の沈降によって裂開及び折損しそうな枝で不要なものは、早めに剪去する。

【わい性台樹】

- ・枝の掘り上げを行う。
- ・下枝部分の雪を踏み固める。

ウ 融雪促進剤の利用

- ・事前に融雪促進剤を園地に運搬しておく。
- ・2月上旬以降数回にわたり、晴天が数日続く日を選んで融雪促進剤を散布する。

(8) マメコバチの飼養管理

近年、授粉がうまく行われずに斜形果が多く見られている。その要因として、マメコバチの巣筒を長年使ったり、巣箱を園地内に放置したままにすることなどにより、マメコバチの数が減少していることが挙げられる。マメコバチの増殖を図るため、冬から早春にかけての管理や準備を適切に行う。

ア 巣筒の更新

コナダニなどの天敵類が増加しないように、3～5年に一度は巣筒を更新する。巣筒には内径6～6.5mmのアシガヤを使用し、長さ25～30cmで切り口が斜めになるように鋭利な刃物で一本ずつ切る。その際、アシガヤの節が出入口近くにならないように注意する。

イ 繭の洗浄

2～3月頃に、営巣した巣筒を割って健全な繭を取り出し、繭の表面についたコナダニや汚れを落とすために洗浄する。

【洗浄方法】

- ① 繭を洗い桶などに移して冷水を入れ、3分間ほどかき混ぜて水になじませる。大きなゴミは取り除く。
- ② 繭を網杓子ですくい上げ、ザルをセットしたボウルに移す。冷水を入れ、ザルの網目にハケで繭を擦り付けるようにして、3分間ほど洗う。
- ③ 網杓子で繭をすくい上げ、3分間ほど流水に当ててかき混ぜながらゆすぐ。

【繭の乾燥】

大きな箱などに新聞紙や布を敷き、水をよく切った繭を重ねないように並べ、気温3～10℃で日光の当たらない場所に置く。乾燥後、保存容器に入れ、冷暗所で保管する。

ウ 放飼時期調整のための巣箱の冷蔵庫保管

4月上旬頃、筒内でマメコバチが動き始め、カチカチと音がするようになったら、0～5℃の冷蔵庫に保管する。

(9) 酸性土壌の改良

酸性土壌を改良する場合は、土壌分析結果に基づき、収穫作業終了後に改良資材を必要量施用する。なお、土壌分析の依頼はJA全農あおもり土壌分析センターか最寄りのJA等で受け付けている。

3 一般作業

- (1) 園地清掃 (2) 堆肥づくり

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更される農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用する必要があるため、変更の有無を次のWebサイトで確認してから使用する。

○農林水産省「農薬登録情報提供システム」

<https://pesticide.maff.go.jp/>

○（独）農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報・速報」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

○青森県農業情報サービスネットワーク「アップルネット」農薬情報

<https://www.applenet.jp/nouyaku/>

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを!! 》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

※詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

機械やはしごを使う際には、事故のないよう十分注意しましょう！

園地を見回るなど、りんごの盗難に注意しましょう！

令和3年りんご生産概況は11月30日（火）発行の予定です。